

# 急変する社会状況の中、 社会課題の解決に貢献する「新製品」を 創出し続ける。 それがTDKの役割です。

TDK株式会社 代表取締役社長

上 釜 健 夫

3月の東日本大震災で被災された皆様に、改めてお見舞いを申し上げます。

今回の震災においては、当社も北茨城の工場が被災したほか、一時は原材料の調達が困難になるなどの事態となりましたが、国内外のサプライヤーの皆様との連携によって乗り切ることができました。これも、日常からの積み重ねによる信頼関係があつてこそと、認識を新たにしていきます。同時に、今回の経験に基づき、BCP（事業継続計画）をはじめとした危機管理体制のさらなる強化も早急に進めたいと考えています。

さて、この未曾有の大災害を経て、私たちの社会は今、大きな転換を迫られています。太陽光などの代替エネルギー利用や分散型エネルギーシステムの拡大、事業データのクラウド化が進んでいます。その中で、私たちTDKが部品メーカーとして果たせる役割は非常に大きいと感じています。

たとえば、太陽光発電や風力発電装置については、すでに多くの部品を提供しています。クラウド化の進行により、高性能が要求されるハードディスクの用途が拡大するため、TDKの技術が一層活かせるでしょう。

また、資源問題の解決にも寄与するべく、レアアースを使用しない磁石の開発も進めています。今後、ますます高まるであろうこうしたニーズを先取りできるよう、体制を整備していきたいと思ひます。

さらに、CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組みも、注力して進め

ていきます。今年度、新たに制定した環境ビジョン「TDK環境活動2020」には、当社が事業活動によって排出するCO<sub>2</sub>を、製品やノウハウを提供していくことで削減する貢献量で、プラスマイナスゼロとする「カーボンニュートラル」の達成を掲げています。

その実現のためにも必要なのが、電子部品による環境貢献の「見える化」です。製品の製造段階でのCO<sub>2</sub>排出量とともに、その製品の使用段階で削減できるCO<sub>2</sub>排出量を、それぞれ数値化していく。ぜひ、業界全体にも呼びかけて規格づくりを進めたいと考えています。

これらの取り組みを実現していくために、一層力を入れていきたいのは人材の育成です。命じられたことをただこなすのではなく、常に問題意識を持って課題にチャレンジする「自律型人材」を育てることで、社内を活性化させていきたい。また、若手社員に海外での経験を積ませるなど、グローバル人材の育成にも注力していきたいと思ひます。

「強い会社」とは、新製品をどんどん世に送り出せる会社のこと。そして新製品とは、サイズ、品質、コスト、さらには環境配慮や社会課題の解決という面で、従来品より優れている製品のことだと考えます。新しい独自性の高い材料や部品を生み出すことで、社会に貢献する。今も昔も変わらないその役割を担いつつ、より「強い会社」を目指して、TDKは歩み続けます。

本レポートをお読みいただき、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

